



東山文化と江東文化

江東区の水辺に親しむ会 二嶋 洋太

昨年の春、府中市美術館で「山水に遊ぶ—江戸絵画の風景250年—」という展覧会がありました。江戸時代に描かれた風景画を集めて往時の人々が風景を描くこと、飾ることにどのような思いや楽しみを感じていたのかを見ていくという展覧会で、山水に遊ぶというタイトルどおり展示されていた絵のほとんどが山の辺や水辺の自然を描いたものでした。一つ一つ見ていくと、外国の風景が描かれたり、自然と共にある人間の暮らしが描かれていたりと多彩でしたが、日常と違う世界へのおそれやあこがれのようなものを多くの絵から感じました。

江戸時代の古地図を眺めていると江戸の人々は身近な山の辺、水辺にも日常と違う世界を求めていたのではないかという思いがします。江戸では寺社、遊郭、劇場などの多くが水辺に設けられていました。江戸の町が発展して行くにしたがって、水と緑に恵まれた本所深川などの墨田・江東地域は松尾芭蕉や多くの文化人の住んだ文化の発信地となって行きました。

京都でも山の辺や水辺に寺社や文化的空間がつくられました。現在の日本文化の原点のひとつともいえる東山文化を育んだ足利義政の銀閣寺は東山の山の辺にあります。鴨川の四条河原は出雲阿国が歌舞伎踊りを踊って以来、いまも芸能興行の中心となっています。

東山は京都の中でもひとときわ京都らしい場所として旅行ガイドなどでよく紹介される人気の観光地です。実際に東山周辺を歩いてみると、市の中心に近く豊かな自然と文化遺産の遺されている鴨川の水辺や東山の山の辺は、京都に住む人たちや訪れる人たちに心の余裕を与えてくれているように感じました。京都の東山と東京の江東は中心市街地の川向こうに位置していて、自然に恵まれているという共通点があります。江東のまちは東山から学べることがあると思いました。



鴨川の水辺(写真二嶋)

お知らせ

3月11日に起きました東北関東大震災で被害にあわれた方々には、心よりお見舞い申し上げます。深川観光協会と特定非営利活動法人江東区の水辺に親しむ会で、毎年共催してまいりました「お江戸深川さくらまつり」も今年は中止といたしました。被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

■水彩サロン2011 春学期「江東区の水辺環境」

5月15日(日)14:00~16:00: 中瀬勝義さん(エコライフコンサルタント)
「知っておきたい水質の話」～東京水辺空間の魅力～

6月19日(日)14:00~16:00: 清田秀雄さん(江東区水辺と緑の課)
「江東区・水辺の生き物」～魚・鳥・虫・植物～

7月24日(日)14:00~16:00: 河合末二さん(江東区和船友の会)
「和船が通る江東区の水辺」～和船の不思議～

会場:森下文化センター第一会議室 受講料:1回1000円(資料代込み)
申込み:【直接窓口または電話】森下文化センター Tel 03-5600-8666 【e-mail】江東区の水辺に親しむ会 mizube@talo-city.co.jp



カッター(東京海洋大学)とカヤック(写真奈良)



水鉄砲(写真須永)



キャンドルナイト(写真須永)

という地形や区政が背景にあるでしょう。“人の集まるところに文化が生まれる”といわれていますが、文化とは生活そのもの。核家族、団塊、隔離、孤立、そんな言葉がとびかう現代社会が失ったものがそこにあるからこそ支持され続けるのでしょうか。主催者側や支援する企業や各種団体、みんなの熱意、創意、苦心、努力、協調、親睦、善意…。そんなパワーが結集して実現するのが祭りであり、共同コミュニティの呼びもどしといえましょう。ふれあえば人はつながり、集うところに文化が生まれる、そんな人の和を感動的に実感できた水彩フェスティバルでした。

みどりネットKoto 小笠原光男

水彩サロン

2009年秋学期◎ 講師：内田正洋さん（海洋ジャーナリスト）



海をこよなく愛するシーカヤッカーでもあり、また、太平洋の海洋民族であることを忘れない日本人が増えることを願う内田正洋さんに「瀬戸内カヤック横断隊」のスライドを交えながら、カヌーを軸に多方面にわたる楽しい話を2回にわたって伺いました。



瀬戸内カヤック横断隊「2009年11月27日 斎島～安芸島の海域（広島と愛媛の県境あたり）」

「海洋文化とシーカヤック」

瀬戸内海をシーカヤックで東西に横断する旅の模様をスライドで見ました。シーカヤックはエンジン船ではなく手漕ぎですから、昔と同じように浜辺をよく知り、潮の動きをよく知っていて、神頼みをしながら昔と同じような場所で風待ちをして進んでいきます。シーカヤックで海側からみると瀬戸内海は自然を含めて、世界に残すべき遺産がたくさんあります。ところが、海側から見る機会がほとんどないので、平気で埋め立ててしまう。埋め立てると当然海は消えてしまうし、埋め立てによって生態系は明らかに変化します。自然を守ろうとか、文化を守ろうというの意外と進んでいないのです。日本の海洋文化が一番残っているのは漁業で、世界で最も古くから漁労をやっていた可能性があります。しかし、戦後は特に海からの視点がなくなってしまいました。海を伝って文化が動いていたということを前提にした研究、つまり海洋文化を海からの視点で研究している人があまりいないのが現状です。

「エコロジーとシーカヤック」
エコロジーという言葉は19世紀終わり生物学の世界で生まれ、今は生態学です。ボストンのエレン・スワロー女史が産業革命によって非常に水質が悪化したため、まず水質検査から始めたそうです。女性の発想で水質検査から始まり、人間を含めた生態系を考えたのが、今のエコロジーに一番近いものです。公害に対応することが本質的な意味なのですが、この点はあまり理解されないで曖昧にされています。また、正確に言うと今のエコはエコロジカルシステムで、循環、つながりということで生物がすべて繋がっているということです。この連鎖を断ち切るのは公害で、公害が最終的には海に行く。

海から見ると全ての問題が見えてくるのです。だから海洋学者が公害を告発し始め、これが今のエコロジーの動きに繋がっているのです。エコにはエコノミーとエコロジーの両面があることを理解していればエコの動きはわかりやすいと思います。

シーカヤックは最低でも4000年前にはあったのです。アリューシャン、アラスカまで島が連なって島の周りには海藻の森があり、カヤック、カヌーはその上を滑つて進むことができたのです。海藻の森を伝って日本列島からやってきた人達が最初のアメリカ人だという説もあります。またカヌーという言葉はコロンブスがカリブ海の現地の人たちが乗っていた舟を呼んでいた発音をそのままに紹介したのですが、それより800年も前の古事記に「カノ」という言葉が出てきます。カヌーは日本が発祥の可能性があります。アメリカ大陸まで行ける能力がある船の文化を持っていたということです。日本列島は温帯雨林で覆われた島で、カヌーを作る大木がたくさんあったのです。森の世界がカヤックやカヌーを生んだのです。また森自体が民俗学でいわ

2009年秋学期

第1回(9月) 「ドバイの沿岸巨大開発とアラブ人の海洋文化の継承」
講師：宮澤京子（有限会社「海工房」取締役）

第2回(10月) 「海洋文化とシーカヤック」
講師：内田正洋（海洋ジャーナリスト）

第3回(11月) 「エコロジーとシーカヤック」
講師：内田正洋（海洋ジャーナリスト）

suisai salon



何もなかったのです。特に昭和40年以降、公害が増えて海が汚染され、海に行くという教育が小、中学校から消えたのです。シーカヤックを使うことで、海洋教育と環境教育の両方が出来ることがわかつてきました。エコロジーが海洋学者の発想から始まつたということに繋がるのですが、環境のつながりの全てが海に流れ込むのだから海の教育をしないと、環境教育はわからないのです。この考えが理解されれば、エコロジーが理解され、シーカヤックは（本当は遊びなのですが）単なる遊びの道具ではなく、エコロジーを理解するため最適な手段となるのです。　まとめ（田中貴子）

水彩都市江東区の将来に向けた夢を 江東ジュニアカヌークラブ 小宮 次夫

江東区は、平成21年度に区内の中学生からカヌー部員を募集し区立中学校の部活動として創部し、ジュニアアスリートの発掘・育成を始めました。江東育ちのアスリートが東京国体やオリンピックで活躍する夢を、カヌースプリント競技で実現させたいと思います。

また、江東区は都内初の大人や子ども、誰もが乗れるカヌーカヤック場を開設します。指導員が常駐する初心者向けのカヌーカヤック場で、今夏8月に豊川河川敷公園内（高架下）に建設予定です。区民がカヌーに親しむことにより、水上スポーツの振興や底辺拡大、親水や河川利用の促進につなげ、あわせて、区民の健康増進や青少年の健全育成の場として活用できます。さらに、中川船番所資料館の隣接する河川敷に、「川の駅」構想が推進され、水陸両用バス乗り場、和船の工房と渡し場、カヌー艇庫と乗り場の総合的な水辺環境整備をします。完成すれば、都内有数の親水スポットになりますが、今後の課題は、ソフト面の企画が必要になってきます。

最後に、昨年の「水辺への招待展」（カヌーから見た水辺）で、旧中川、小名木川、横十間川、北十間川の周遊コースの活用を提唱した文を再掲します。

提唱1 中川船番所の旧跡にカヌープラザを作り、カヌーのメッカにしよう。

提唱2 旧中川、小名木川、横十間川、北十間川の周遊コースをカヌーで舟遊しよう。

提唱3 江東リバーカヌーマラソン大会と障害者カヌーマラソン大会を開催しよう。



小名木川・番所橋より(写真小宮)